

教科名	国語
-----	----

現状分析（生徒の学習状況についての実態および定期考査等を含む学力調査の結果等を踏まえた
内容別・観点別の分析表）

学習状況の実態	内容別・観点別結果の分析
<p>学習状況の実態としては、全体的には授業への取り組み姿勢が前向きな生徒が多い。第三学年は受験を意識し出している。それにより、挙手や発言も前年度より増加している。</p> <p>例年苦手としている記述の学習は、継続した練習をすることで徐々に抵抗なく取り組めるようになってきている。しかし、授業者として結果が実感できるのは、年間を通して実践した場合であり、内容の質の向上にはさらなる継続指導と多面的な指導が必要だといえる。また、小学校レベルの漢字の読み書きが不十分な生徒がみられる。家庭学習の定着を図れていない生徒が多いことも一因として考えられる。</p> <p>定期考査の結果としては、漢字の読み書き問題には比較的意欲をもって学習している生徒が多い様子がうかがえる。また、文法や俳句・短歌など知識を問う問題については答えが明確に存在するために、問題に取り組みやすさを感じている生徒も多い。</p>	<p>学力調査の結果としては、国語A（主として知識）と国語B（主として活用）に分類される。</p> <p>国語Aは、平均正答率で全国（公立）を3，6ポイント、東京都（公立）を2，2ポイント上回った。</p> <p>漢字の読み書きに関しては、正答率が高かった。平素の学校生活で通年漢字の小テストを実施している学年のため、学力の定着がみられたのかもしれない。熟字訓などにも触れ、一人ひとりの語彙を充実させていきたい。</p> <p>特に正答率の良くなかった項目は、<9才 語句の意味を理解して文脈の中で適切に使う>の「たなびく」を当てはめる設問だ。正答率は、 全国（公立）49.0ポイント、 東京都（公立）51.7ポイント、 本校（公立）44.5ポイントである。</p> <p>語句の意味が分からなかったことが原因なのだろうかと考える。漢字と同様に語彙を増やすことで改善していきたい。辞典を用いて調べ学習をしたり、言葉の由来を説明することで丸暗記ではなく、理解して自らの力となるような指導を展開していきたい。</p> <p>国語Bの正答率に関しては全国（公立）平均は上回ったが、東京都（公立）の平均は、0.3%下回る結果となった。しかし、平均正答率は本校、東京都（公立）ともに9問中6問であり、生徒総数によって生じた差だと考えられる。いずれにせよ、知識は平均以上だが、それを活用する力は平均的だといえる。今後発展的な力の育成に努めていく。</p>